

漁獲シナリオ等の検討及び 今後のスケジュールについて

令和7年10月29日(水)、30日(木)

資源管理方針に関する検討会
～第5回スケトウダラ日本海北部系群～

水産庁

1. 資源管理目標の案

(スケトウダラ日本海北部系群)

- 資源評価に基づき研究機関から提示されている資源管理目標の案を採用する。

項目	案	現行
目標管理基準値(Target Reference Point:TRP) ＝MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	29.3万トン	38.0万トン
限界管理基準値(Limit Reference Point:LRP) ＝下回ってはいけない資源水準の値(MSYの60パーセントを達成するために必要な親魚量)	12.2万トン	17.1万トン
禁漁水準値 ＝MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量	1.7万トン	2.5万トン

2. 漁獲シナリオの案

(スケトウダラ日本海北部系群)

- 研究機関から提示された漁獲シナリオの案は、親魚量が10年後の2036年漁期に、50%以上の確率で目標管理基準値を上回るよう、親魚量の値に応じ、漁獲圧力を調整。
 - 親魚量の値が限界管理基準値を上回っている場合には、MSYを達成する水準に調整係数(β)を乗じた漁獲圧力とする。
 - 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、当該親魚量の値から禁漁水準を減じた値を、限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、上記に基づき算出した値に乗じた漁獲圧力とする。
 - 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。
- 将来の漁獲量が最大になる β は0.9。

表1. 将来の平均親魚量 (万トン)

2036年漁期に親魚量が目標管理基準値案 (29.3万トン) を上回る確率

β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
1.0			24.9	26.2	26.6	26.8	27.8	29.3	30.5	31.0	31.2	31.2	45%
0.9			25.1	26.7	27.3	27.6	28.7	30.3	31.6	32.3	32.6	32.7	50%
0.8	17.8	21.6	25.3	27.2	27.9	28.4	29.6	31.4	32.7	33.6	34.0	34.3	54%
0.7			25.6	27.6	28.6	29.2	30.6	32.5	34.0	35.0	35.5	35.9	59%
0.6			25.8	28.1	29.3	30.1	31.6	33.6	35.3	36.4	37.1	37.7	64%
0.5			26.1	28.6	30.1	31.0	32.7	34.9	36.6	37.9	38.8	39.5	68%
現状の漁獲圧			25.6	27.6	28.5	29.1	30.5	32.3	33.8	34.8	35.3	35.7	58%

表2. 将来の平均漁獲量 (万トン)

β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.0		2.9	3.1	3.4	3.6	3.6	3.8	3.9	4.1	4.2	4.2	4.2
0.9		2.6	2.9	3.2	3.3	3.4	3.5	3.7	3.8	3.9	4.0	4.0
0.8	1.1	2.4	2.6	2.9	3.1	3.1	3.3	3.4	3.6	3.7	3.8	3.8
0.7		2.1	2.3	2.6	2.8	2.9	3.0	3.2	3.3	3.4	3.5	3.5
0.6		1.8	2.0	2.3	2.5	2.6	2.7	2.8	3.0	3.1	3.2	3.2
0.5		1.5	1.7	2.0	2.1	2.2	2.4	2.5	2.6	2.7	2.8	2.9
現状の漁獲圧		2.1	2.3	2.6	2.8	2.9	3.1	3.2	3.3	3.5	3.5	3.6

3. 「TAC固定」と「TAC未利用分の繰越し」に係る試算

(スケトウダラ日本海北部系群)

- 前回のステークホルダー会合において、研究機関から提示された漁獲シナリオの案に以下のルールを導入した場合の将来予測の試算を求める意見が出た。
 - TACを固定する
 - TACの未消化分を翌管理年度に繰り越す(※現在も当該水産資源には導入)
- 研究機関試算結果は以下のとおり。
 - ＜TACを複数年固定＞
 - ・ **3年固定は2.9万トン以下、5年固定は2.7万トン以下**であれば、許容可能。
 - ・ 固定期間後は、 $\beta = 0.9$ 以下であれば10年後に目標管理基準値案を上回る確率は50%以上となる。
 - ＜TACの未消化分を翌管理年度に繰越し＞
 - ・ **$\beta = 0.9$ で管理年度当初のTACの5%、 $\beta = 0.8$ で同15%**を上限に翌年に繰り越すことは、許容可能。
- 漁獲可能量の固定期間中の資源評価の結果、漁獲圧力が、最大持続生産量を達成する漁獲圧力を超過することが見込まれる場合には、漁獲シナリオを見直す。

4. 今後のスケジュール

(スケトウダラ日本海北部系群)

R7年 8月5・6日	第4回SH会合 ・ 現行の資源管理方針及び資源の状況等について説明 ・ 今後SH会合で検討すべき事項について説明・議論
R7年9月30日	資源評価結果公表
R7年 10月29・30日	第5回SH会合 ・ 令和7年度資源評価結果について説明(資源管理の目標(案)及び漁獲シナリオ(案)の提示を含む。) ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論 
R7年11月以降	第6回SH会合 ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論の続き ・ 議論の取りまとめ
R8年1月	パブリックコメント開始 (SH会合の取りまとめを反映した、資源管理方針の変更(案))
R8年2月	水産政策審議会資源管理分科会 ・ 資源管理方針の変更(案)に対する意見聴取 ・ 令和8(2026)管理年度のTAC及びその配分(案)に対する意見聴取
R8年3月	資源管理方針の変更及び令和8管理年度のTACの決定
R8年4月	変更後の資源管理方針等に基づくTAC管理開始

本日の検討会はこちら